

ゲン イニイ

ベトナム出身

麗澤大学 外国語学部外国語学科

来日したことでプラスとなったこと

日本へ来たばかりのとき、生活で様々な大変なことがありましたが、あっという間に5年間という月日が経って日本生活に慣れてきた私にとっては日本が一部になりました。楽しい思い出や失敗と共に、日本でしか体験できない経験からたくさん学ぶことができました。そして、留学により、プラスとなったことが様々あります。

まずは日本語力です。日本語学校と日本の大学に通って日本語を学び、毎日生活で日本語を使う機会がたくさんあるおかげで、日本語力を早く伸ばすことができます。それで、日本語を活かして新しい出会いができ、様々なアルバイトもできます。そして、自分と異なる価値観に触れる機会がたくさんあり、今まで当たり前のように思っていた常識が全てではなかったことが勉強できました。人により異なる背景または体験を持っており、視野や考え方は同じわけではありません。このように、異文化交流の経験を積むことができ、お互いに異文化を尊重しながら、協力するスキルが磨かれます。それは、日本語・国際コミュニケーション専攻に所属する私にとっては素晴らしい体験になると思います。または、日本語ができるようになるので、翻訳に依存しなくても日本語の情報や資料を読められ、様々な新しい知識や視点を身につけることができるようになりました。

2番目は、留学により、日本の文化や礼儀を身につけました。飲食店などの接客業などで日本でおもてなしの素晴らしさを体験しました。どこの店に行っても店員さんが笑顔で、優しく案内されますので、心が落ち着き、楽しく買い物することができます。そして、アルバイト先でそのもっとも献

身的かつ洗練された上品なマナーによる日本の伝統的なホスピタリティで接客のマナーを学びました。さらに日本人の真面目さと勤勉性を勉強させてくれました。マニュアルにいつもしっかり従って、仕事に対する高い責任感を教えてくれました。そのため、どのような仕事であっても、責任を持ち、丁寧にやることを忘れません。

3番目は失敗が怖くないことです。日本の生活で失敗したことが数え切れないほどたくさんあります。飲食店でのアルバイトをする最初の時、日本語が下手ですので、店長の指導が分からなかったり、お客さんの注文を聞き取れなかったりした失敗がたくさんあります。そして、大学や奨学金に不合格になったり、仕事を見つけられなかったりなどの様々な失敗もあります。しかし、毎回失敗を乗り越えて、前向きに進むことを決めました。新しいことに挑戦し、失敗なら経験になり、またやり直します。このように、自分の能力がどんどん改善でき、自信があるようになります。今過去にあった失敗を思い出しても悔しい気持ちがありません。失敗の経験がたくさんある今はもう自分という人間を形成するのに欠かせない部分となると思います。

留学前はあまりにも少ない自分の経験値でしたが、日本へ来てたくさんの体験ができ、価値観も変えて、日本語、日本社会、日本文化などへの理解は深くなりました。そのお陰で、自分が毎日成長できるようになったと思います。

奨学生期間中にできたこと・将来計画

新型コロナウイルスが始まった日から2年間以上も経ち、マスク着用やオンライン授業や在宅勤務などという新しい生活に自分も少しずつ慣れてい

くようになりました。今年度、大学は対面授業とオンライン授業を両方に行います。新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、授業が対面かオンラインか柔軟に変えます。そして、授業の資料がクラスルームで掲載されますのでどこでもアクセスでき、課題も簡単に提出でき、とても便利だと思います。そして、対面授業と比べ、オンライン授業は弱点もありますが、利点も少なくないと感じました。

自分の研究は「日本とベトナムにおける親子関係」です。日本では、お年寄りになると、子どもに迷惑をかけたくないし、子供から仕送りをもらいたくないということを聞いたことがあります。一方、ベトナムの子供が両親に仕送りをあげることは親孝行という行動として認められ、両親がその気持ちを理解し、仕送りをもらいます。しかし、現在ベトナムは発展途上国であり、ベトナムの家族の中ではお互いに経済的な支援が必要だと考えられるが、将来的にどのような変化があるのかという疑問もあります。

そのため、研究の目的は、日本とベトナムにおける親子関係(親と成人した子供の関係)の共通点と相違点を分析し、それについて文化や社会的背景がどのように反映されているかを明らかにすることです。さらに、今後ベトナムでの親子関係がどのように変化するのかを論じます。現時点では先行研究を探し参考にしています。今年の2月に、ベトナムに一時帰国し、ベトナムでの先行研究を探しました。3月に日本へ戻った後、卒業論文を書き始めて、調査を行います。最初調査方法はアンケート調査をするつもりでしたが、今はインタビューの調査をしようと考えました。そのほうが親子関係の文化背景を明らかにすることができると思います。

新型コロナウイルス感染拡大の影響もまだ受けており、アルバイトなども厳しい状況になります。そして、坂口国際育英奨学財団の奨学金を受給することによって、学習や研究に専念できる時間が増えたことに喜びを感じます。もしご支援をい

ただけなければ、生活がどうなるか不安でした。そして、授業とアルバイト以外の時間も増えるので、英語に専念して勉強したり、ボランティア活動をしたり、ベトナム大使館に関する活動をサポートしたりします。そのため、たくさんの有益な経験を得ることができます。また、新しいインターンシップも見つけました。

この1年間は、坂口国際育英奨学財団の皆様のお世話になり、誠にありがとうございました。貴財団の皆様のお陰で、私たちのような留学生たちは学習や研究などに集中できて、外務省に勤める夢を叶えるために毎日安心して頑張っているようになりました。卒業後、就職を考えていましたが、異文化交流または日本の文化に関してもっと深く研究したいと思いますので大学院進学することを決めました。いつもご支援をいただき、心より感謝いたします。今後も、どうぞよろしく願っています。

以上